町の活性化

細川紙を東京オリンピック・パラリンピックでの使用へ

本気になって取り組みます

とにかく一日も早く行動を

大戸久一 議員

質問 細川紙のユネスコ無形文化遺産登録決定は、和紙手漉き技術が世界的に評価されたあかしである。町の活性化・和紙関係者や後継者の励みにもなり、大きな目標にもなる2020年東京オリンピック・パラリンピックでの和紙の使用実現は。

答弁 産業観光課長 町内外の関係団体と、使用実現に向けて情報交換を行なっています。

質問 県・国の強力なバックアップを仰ぎ、オリンピック関係者へのアピールをより積極的に、迅速に行なうべきと考えるが。

答弁 産業観光課長 さまざまなルートからアピールし、本気で取り組んでいきます。

工芸会館内和紙工房の充実を

質問 多くの和紙体験希望者・見学者にも対応できるよう、会館内和紙工房・資料展示スペースの充実、入館料の無料化について検討を[14]。

答弁 産業観光課長 映像紹介、和紙の歴史解説等を行なう観光案内員を置き、和紙職人のチームを分けでローテーションを組み、対応していきます。工房面積増は考えていませんが、入場料は検討します。

旧上野台中に保管してある膨大な和紙資料の一部

質問 旧上野台中に保管の貴重な和紙資料は、コンクリート構造上、温度変化・湿気面等で傷みやすい環境なので、一日も早く工芸会館内に展示し、来館者に見てもらうべきと考えるが。

答弁 生涯学習課長 3159のタイトル、5822点の膨大な資料、各関係課と連携・整理・分類し、展示の準備をします。

健康増進

健康長寿を推進する町を目指しては

考えていきたいです

いつまでも、お元気で、健康で、長生きしてください

島﨑隆夫 議員

質問 「ほほほ隊」✪の活動と今後の展開は。また、町民が普段行なっている散歩やウオーキングコースの情報を共有し、「(仮)安全安心マップ」をつくり提供しては。あわせて、市野川沿いの遊歩道を整備し町民の健康増進に寄与しては。

答弁 健康増進課長他 「ほほほ隊」は町内全4地域にあり、活発な活動をしています。元気なまちづくりの一助となると考えますので、支援を続けていきます。マップは研究していきたいです。遊歩道に関しては、地域の活用状況を踏まえて県への整備要望をしていきたいです。

質問 「和紙マラソン」「仙覚万葉ウオーク」に続き、「(仮)小川和紙オリエンテーリング」を考えてみては。

答弁 生涯学習課長 ご提案どおりのものはできませんが、和紙関連のウオーキング、ハイキング行事は考えたいです。

堤防の散歩道の一例

質問 総合運動場の多目的グラウンドの利活用をもっと推進できないか。

答弁 生涯学習課長 利用率は高いほうがよいので、考えていきたいです。

すたむちゃんのひと✪メモ

✪「ほほほ隊」とは

“歩いて健康！　ひろげようウオーキング！”　一緒に歩こう「ほほほ隊」を合い言葉に発足され、健康増進のためのウオーキングを行なっています。

[14] 4月1日現在の入館料は大人300円、小中学生150円です。

[15] 燃料として廃材（木材）・ペーパーログ（新聞紙・コピー用紙）などを使用するボイラシステムです。

町民みなさんのひろば

わたしのひとこと

地域資源を活かした振興

下横田　大石正人（おおいしまさと）

私は、冬季には山仕事をしている。その中には杉・檜の間伐も含まれている。しばし私は考える。間伐材を山に置き去りにして、仕事で得たお金でガソリンスタンドに駆け込み灯油を購入して、給湯・暖房として使用している。ブラックジョークではないかと……。

薪ストーブや薪ボイラー[15]を活用している仲間もいる。私も何とかしたいと思い、調べてみると、薪・ペレット・発電、さらには間伐材から改質ガスや水素を取り出す技術等、バイオマス関連の情報は多くある。

森林資源がある小川町で、身の丈に合ったバイオマスを含めた自然エネルギー関連事業が新たな雇用を生み、地域のエネルギー自給率向上になるのでは。家庭の中だけでなく、地域で適切な資源活用の取り組みができたらよいなと思う。

議会を含めて多くの人々の知恵を活かす時ではないだろうか。

小川町に期待すること

コスモ小川　恩田篤義（おんだあつよし）

３月議会町長施政方針によると、「町民との協働により魅力あるまちづくりの実現」とあります。主として３つの重点項目『地域の活力向上・安心安全の創造・子育て支援と健康増進』を挙げておりますが、さらに「選択と集中」を願いたいものです。

私は、製紙業を営み、３人の子を持つ子育て世代でもあります。事業主は、皆連帯して社の責任を負います。経費削減や創意工夫がなければ今日も明日もありません。「時代を知り、時代に乗ること」が生き残る術だと感じております。現在共働きが常である状況下、行政が手厚い子育て支援に積極的に介入し、人口増加や地域活性につながることは、全国的にも実証されています。

子を育て、人を育て、社を育て、地域・国へと結びつく。小川町がどこから第一歩を踏み出す選択をするのか期待しています。